

第一回 救世軍社会鍋俳句コンテスト句集

優秀賞

社会鍋うなじであやつる車椅子

埼玉県 関口まささを

特別賞

社会鍋祖母の生まれし明治より

東京都 野原てい子

特別賞

社会鍋幼な子の手に意を託し

岡山県 武田 忍

ほのぼの賞

につこりとスマホにおさまる社会鍋

宮城県  
羽田早苗

ほのぼの賞

爪先で覗き込む兎の社会鍋

埼玉県  
坂本弘國

ほのぼの賞

鍋にさゝげ両手合わせし老婆あり

東京都 朝野 洋

社会福祉部長賞

しゃかいなべみんなのあいがつまってる

広島県 呉保育所 年長組13人

返礼は笑顔とラッパ社会鍋

この年の感謝を喜捨きしゃに社会鍋

行く人も祝福がある社会鍋

ラッパにも知らぬ顔して社会鍋

人々のぬくもり集めて社会鍋

旗はた襷たすき袴はかま干されて年納め

コルネット天地に響け社会鍋

社会鍋見得も手伝ふことのあり

慈善鍋福音もたらずブラスカな

社会鍋讚美歌謳うラッパかな

ラッパ聞こゆ調べたよりに社会鍋

ラッパ抱えまらずは募金す社会鍋

年の瀬に心温める社会鍋

思いやり誰かに届く社会鍋

声かけて献げる人の暖かさ

双子さん初めて入れる社会鍋

主の力内にはたらく社会鍋

スープソーパサルベーションと旗が舞う

美しき音にアンコール社会鍋

街角に光あかりを灯ともす社会鍋

やさしさがギョツと詰まった社会鍋

歌うたもなく笑みで支える社会鍋

我也また困む日もある社会鍋

雑踏で孤高なるかな社会鍋

歳末のふと足とめし社会鍋

難民の兎この目につなぐ社会鍋

目につなぐ難民の児この社会鍋  
寒空さむぞらに心あたため社会鍋  
鍋料理ちり鍋寄せ鍋社会鍋  
にっこりと笑顔溢れる社会鍋  
ありがとう心を込めて社会鍋  
社会鍋小銭捧ぐる小さき手  
社会鍋ラッパの音ねさえ気ぜわしく  
温ぬくもりも包みて入れし社会鍋  
社会鍋並び給食待つ人に  
手は人に心は神に社会鍋  
神の愛人のぬくもり社会鍋  
立てなくて急になつかし社会鍋  
立てなくて嫁に引き継ぐ社会鍋

ハレルヤと讚美歌唄い社会鍋  
幼き日師と手をつなぎ社会鍋  
しゃかいなべまぶねのごとくじゅうじろに  
とつくにのわかつこころのしゃかいなべ  
鍋に寄る笑顔にふれて声はす弾む  
マイク持ち慈善との人はと右左  
一いちレプタひと夜の飢よえ満たす音  
社会鍋おつごもりの夜よはふけて  
もの言わず五百円札社会鍋  
凍しむ街に見ぬ人温ぬくめむ喜捨の鍋  
社会鍋与うる人も受くる人  
慈善鍋捧ぐる人も温まる  
異教徒のめぐみも入る社会鍋

キリストの影たっている社会鍋  
冬の寺ごった返ししゃかいなべの社会鍋  
冬紅葉旅の記念の薬身膳やくみぜん  
社会鍋親子三代頭下げ  
雪の中ラッパもさえる社会鍋  
社会鍋観光客が写真撮る  
社会鍋おねがいしますと子供たち  
冬の菊畑のすみで咲きつづけ  
時々は煮込かうどんで冬の夜  
手は震え管凍かんてつけど温まる鍋  
社会鍋入れる人から有り難う  
社会鍋ラッパの音に想い合わせ  
社会鍋ラッパの音に想い乗せ

みこころの地にもと祈る社会鍋  
ありがとう社会鍋立つ雑踏に  
恥はじらいつ町まちかどに立つ社会鍋  
手をひかれお鍋に入れる百円玉  
さいまつのころをつなぐ社会鍋  
社会鍋豊かな心結び合い  
社会鍋交かわすあいさつみな笑顔  
挨拶を交かわすよろこび社会鍋  
年末の寒空の下社会鍋  
数人と吾も行くかな社会鍋  
善意まつ鍋と共なり年の暮  
世界中祈りとゞける社会鍋



親指と小指は遠しシヤボン玉  
縁起物確と詰め込む恵方巻  
踵返しコインを落す社会鍋  
木枯しも少し温もる社会鍋  
本の街優しく守る救世軍  
酒のまず寿司屋の親方長寿なり  
アメリカのケトルにヒント社会鍋  
社会鍋今年も立って107年  
社会鍋今年もみえたあのお顔  
受けた恩返しに今年も社会鍋  
社会鍋銀貨一枚そっと入れ  
烈風とラッパが競う社会鍋  
伸びる手に心感じる社会鍋

社会鍋かわらぬ奉仕見つづけて  
今年も無事感謝の気持社会鍋  
今年も生かされた感謝の気持で社会鍋  
慈善鍋誰かを思うあなたの手  
年の瀬に鍋を囲んで幸せ祈り  
目を向けて救援支援の社会鍋  
分け隔なき世被災地社会鍋  
船に乗りバスで来る人社会鍋  
幼子の声響きくる社会鍋  
時代の具神と人の愛社会鍋  
あらほんと鍋ねと親子社会鍋  
呼びかけに笑顔で入れる社会鍋  
社会鍋かすれたラッパ感動す

救世軍ああ救世軍救世軍

柿食えば鐘が鳴るなりメソジスト  
年の瀬や善意を紡ぎ鍋ゆるる  
立ち居たる鍋に心の暮日和  
師走路に凍てつく鍋の温かさ  
霧氷下に御子が宿る慈善鍋  
鍋奉行ラッパで招く慈善の手  
社会鍋慈善いろいろ具だくさん  
社会鍋に福祉の心教えられ  
買物のおつり委ねる社会鍋  
扶け合いの心寄せ合う社会鍋  
児に持たす母の善意や社会鍋  
お宝をそつと捧げて駆け出す子

宝くじの列はお向い社会鍋

社会鍋急ぐ心に火を灯す  
喇叭の音子らを抱かん社会鍋  
寒空にぬくもり昇る社会鍋  
幼子の握るどんぐり社会鍋  
社会鍋時代の流れに棹をさし  
日溜りを追っかけたいよ社会鍋  
鍋の蓋雪払う手も温かく  
遠くから讚美歌ひびく社会鍋  
鍋つつむ幼子誕生の星あかり  
社会鍋熱き情けの寄りどころ  
辻広しどこまでひびく社会鍋  
百貨店出でし目の前社会鍋

社会鍋百円入れてはいパチリ  
社会なべともに生きてる百十才の母  
かわらぬは人の心と社会鍋  
年重ね今年も立てた社会鍋  
社会鍋休憩に飲むホットコーヒー  
始まるも終はるも祈り社会鍋  
三步めに心残れり社会鍋  
はからずも喜捨の恵みや社会鍋  
他者のため献げる恵み社会鍋  
社会鍋袴に映すひとごころ  
我が胸の想いよ届け社会鍋  
他人へせわかかけずられずと社会鍋  
幸をねがいもとめて社会鍋

思ひやる愛託さるる社会鍋  
支えあふ人の字温し社会鍋  
社会鍋希望の先に光あれ  
あなたから未来につなぐ社会鍋  
母が子へ小銭を渡す社会鍋  
「よい年を」感謝の祈り社会鍋  
去年今年ラツパの音に社会鍋  
神の愛行き交う人に社会鍋  
北風の中にすつくと社会鍋  
はにかみつ幼子鍋にそつと入れ  
社会鍋さむくてふるえてうごけない  
社会鍋いろんな人がすぎっていく  
母おもい床よりささぐ社会鍋

街かどにやさしき樂の音年の暮れ

みこころ 御心を今に伝へし社会鍋

みちしるべかみ 道標神の子集う社会鍋

恩返しこの時にこそ社会鍋

社会鍋生活復帰の道しるべ

小さき愛まとめて世界へ社会鍋

釣り銭も鍋に入れば人助け

鍋の中義理と人情が煮立ってる

晴天の家族総出や社会鍋

軍服の笑顔と礼の社会鍋

讚美歌を歌うと氣持ち安らかに

人思うささやか入れる社会鍋

社会鍋お日さまニコニコほほえめり

風花をラッパで吹き飛ばす社会鍋

社会鍋児等のよび声たからかに

慈善鍋語ってくれた亡父ちちなつかしい

社会鍋支援とどける愛のまど

社会鍋ねがいを込めてさしのべる

遠く来て千ドル入れる社会鍋

鈴振りて踊る乙女や社会鍋

イエスの愛とどけ絆の社会鍋

爆買いの足振り向いた社会鍋

天国に富蓄へし社会鍋

吹くほどに音ずれてゆく社会鍋

誠実と笑顔で交わす社会鍋

たすき掛け愛の実践鍋にあり

幸せをみんなで思う社会鍋  
杖ついで生まれぬ人のためにと社会鍋  
社会鍋遣わされない寂しさよ  
社会鍋遣つて下さい今年こそ  
めずらしげに見てスマホに問うか社会鍋  
さんびかにひかれて行けば社会鍋  
礼深く返す笑顔の社会鍋  
一年のあつといふ間の社会鍋  
社会鍋信望愛のはかまなり  
天の声あなたも入れよ社会鍋  
冬空に心温もる社会鍋  
社会鍋楽の音禁止のわびしさよ  
社会鍋音なく札でさりげなく

ひとり鍋心は熱すあゝサルヴェーション  
ビル風やのぼり手招く社会鍋  
百二歳来年誓う社会鍋  
盲信徒こわごわ触れる社会鍋  
言うなれば社会鍋がキャロリング  
社会鍋声を張り上げキャロリング  
豊洲の冬都庁の風へ百合子力  
感謝しつ心を込めた社会鍋  
町角の優しさ集め社会鍋  
優しさとぬくもり募る社会鍋  
歩み寄る外国人や社会鍋  
社会鍋友との絆ささやかに  
幼子が振り返り見る社会鍋

まごころをあつめて重し社会鍋  
現<sup>うっしよ</sup>在<sup>らいせ</sup>を来<sup>つな</sup>に繋<sup>つな</sup>げ社会鍋

信<sup>みな</sup>教<sup>なそ</sup>と生活結ぶ社会鍋

七十路の父コルネット吹き社会鍋

吹雪く中わたる讚美歌社会鍋

「がんばって」の一声で鍋がわく

「あの鍋に入れて」と一言親子づれ

この年の社会鍋に祈りと思ひ

雪降る日社会鍋に心届かむ

おにぎりとパンも入れたし社会鍋

しゃかいなべドキドキしたけどがんばった

しゃかいなべがぼきんばこでびつくりだ

しゃかいなべひととのであいうれしいな

しゃかいなべみんなとうたつてうれしいな  
タンバリンみんなでしたよしゃかいなべ  
さいごにはカードがもらえたしゃかいなべ  
しゃかいなべみんなのえがおでたのしいな

一九〇六(明治39)年に「慰問かご」から始まり、今日まで百十一年にわたって多くの方々にご協力をいただいていた社会鍋。この社会鍋を題材にした俳句を、二〇一六年十二月から二〇一七年三月まで募集し、日本全国から、二百三十一句寄せられました。

選者の任を負ってくださいました、日本クリスチヤンペンクラブ代表の三浦喜代子氏より、第一回のご感想をいただきました。

広く北海道から九州まで、十七の都道府県から二百を超える句が寄せられ、驚きました。救世軍と社会鍋のお働きが、明治、大正、昭和、平成と、時代を繋いであまねく伝わっていることにも感動しました。歳末の寒風や雪にも負けないで奉仕される方々の喜びあふれる句に心打たれ、響き渡る楽の音や賛美の声が巷の人々の足を止め、心をつかんでいく愛の波動に、神の働きを拝見しました。

あらためてご応募くださった方々に御礼申し上げます。  
救世軍本営